

2019年度病院情報の公表集計

年齢階級別退院患者数

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	16	100	63	80	167	167	261	355	307	107

- 2019年度（2019年4月～2020年3月）の保険を使用した一般病棟の退院患者数を10歳刻みの年齢階級別に集計しています。（90歳以上は1つの階級としています）
- 年齢分布傾向は前年度と大きくは変わらず70歳代の患者数が最も多くなっており、70歳以上の患者の割合は47%となっています。（前年度は46%）

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

【整形外科】

DPCコード	名称	患者数	自院の平均在院日数	転院率(%)	平均年齢
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折	136	40.24	41.18	83.57
160760xx97xxxx	前腕の骨折	86	9.36	1.16	49.45
160690xx02xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰椎損傷を含む。）	74	24.32	16.22	80.89
070350xx01xxxx	椎間板変性、ヘルニア	64	12.25	0	46.13
070400xx01xxxx	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）	58	35.93	1.72	69.66

- 当院は整形外科の単科病院であり、2次救急を行っていることから、外傷疾患入院が約3分の1を占めています。
- 中でも高齢者の大腿骨近位部骨折の症例が最も多く、続いて、前腕の骨折の症例です。
- 当院の在院日数は、生活機能改善に向けて入院リハビリを充実させるため、回復期リハビリ病棟及び地域包括ケア病床での入院期間も含まれております。
- 高齢者による転倒症例が多く、合併症による内科的治療を要する場合や在宅復帰を目的とした長期リハビリ後方病院への転院率が高くなっています。

初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

該当ありません。

成人市中肺炎の重症度別患者数等

該当ありません。

脳梗塞のICD10別患者数等

該当ありません。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

【整形外科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率(%)	平均年齢
K0821	人工関節置換術(肩・股・膝)	135	2.16	40.9	0.74	72.27
K0461	骨折観血的手術(肩甲骨・上腕・大腿)<内固定を行なう>	112	3.29	33.57	29.46	79.55
K1423	脊椎固定術3.後方椎体固定(胸・腰椎)	101	3.06	28.4	3.96	67.98
K1426	椎弓形成手術(頸・腰椎)	97	2.38	24.02	2.06	63.77
K142-4	経皮的椎体形成術	86	4.52	19.47	16.28	80.28

- 大腿骨近位部骨折は、プレート固定による観血的手術のほかに、適応によって人工骨頭挿入術や人工股関節置換術を行います。
- 人工股関節置換術は、CTナビゲーションシステムの導入により、術後の動作制限なく早期社会復帰が可能となり、手術件数は2018年度より約8%増加しました。
- 人工関節置換術は、変形性関節症や関節リウマチに適応する場合があります。
- 脊椎固定術は、主に腰椎変性すべり症/分離すべり症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアなどに適応し、神経を圧迫している部分を切除した後、患者さん自身の骨（移植骨）や人工骨を挿入して固定します。

■ その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率(%)
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	0	0
		異なる	0	0
180010	敗血症	同一	0	0
		異なる	0	0
180035	その他の真菌感染症	同一	0	0
		異なる	0	0
180040	手術・処置等の合併症	同一	27	1.71
		異なる	0	0

- 播種性血管内凝固症候群、敗血症、その他の真菌感染症、手術・処置等の合併症の治療を行った患者について、入院中に最も医療資源を投入して治療した傷病名と入院の契機となった傷病名が同じか異なるかを区別して症例数を集計しています。
- 「同一」は該当する病名の診療目的で入院した症例を集計しています。
- 「異なる」は、ある疾病の診療目的で入院したが、入院中に該当する病名の治療が必要となった症例を集計しています。
- 入院中に最も医療資源を投入して治療した傷病名が、入院の契機となった傷病名「同一」の場合は、その治療を目的とした入院であり、必ずしも入院中に発症した感染症、合併症とは言えません。また「異なる」場合は、何らかの原因によって入院中に発症したものと考えられます。
- 2019年度 播種性血管内凝固症候群、敗血症、その他の真菌感染症の発生は 0% でした。
- 手術・処置等の合併症は、27例 請求率 1.71% で、主な症例は術後創部からの感染症でした。

初回作成日 2020年9月3日